



System Integration

Client and Server

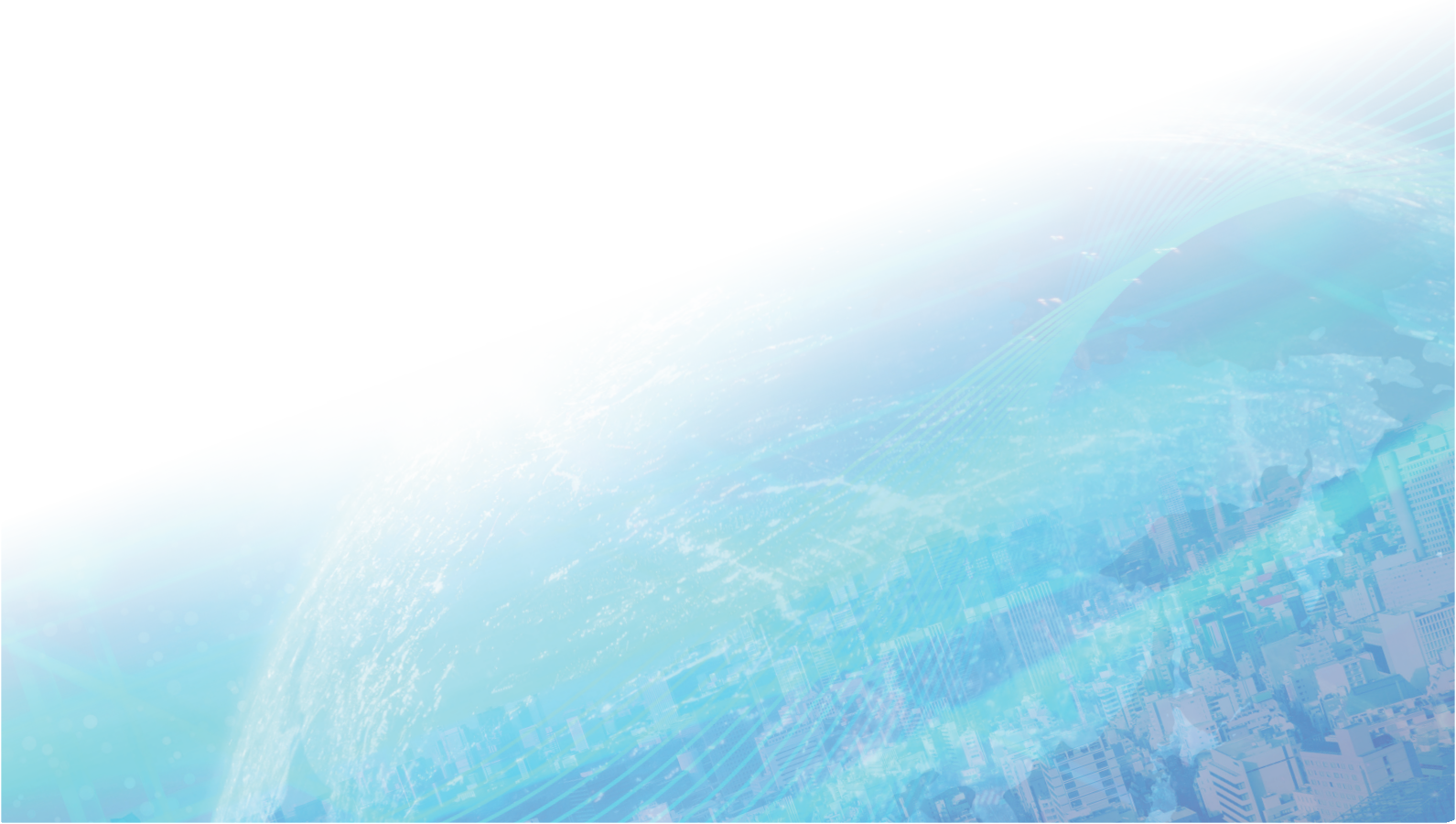
Virtualization

Application

Embedded

Internet

Cloud



創業以来 受け継がれた 「夢」

1987年、大手ソフトハウスから独立したSEら12人の精鋭たちの“夢”を集めて「MACS」は誕生した。当時、ソフトウェア業界は高度成長の追い風を受け未曾有の活況を呈していた。しかし、あまりの急成長にともなう業界の未成熟さもあって、コンピューターメーカーの下請けの体質や技術者を取り巻く労働環境の劣悪さなど、さまざまな問題も噴出していた。ソフト技術者使い捨てを意味する「35歳定年説」がささやかれていたのもこの時期である。そうした状況から、真に「社員の、社員による、社員のための」会社を創ろうとスタートしたのがMACSだった。社員一人ひとりを大切に、会社の繁栄が社員の利益に直結する。一見簡単そうで、実は困難なこの「全員参加の経営」という企業理念こそ、発足以来、脈々と受け継がれているMACSの“夢”にほかならない。

3つの強み

01 業務 アプリケーション

業務をアシストする業務アプリケーション開発

パッケージソフトとは、購入すれば、そのまま使用できる「ワープロ」や「表計算」などのソフトのことである。一方、オーダーメイドで作るソフトウェアが業務アプリケーションである。金融業なら債権管理、流通業なら販売管理、製造業なら出荷や検品、公共事業ならポータルサイトといったように様々な業種で、お客様の要望を取り入れお客様の立場で使いやすいシステムを設計し、お客様に満足していただけるシステムを開発している。

生活を豊かにする組み込み技術開発

生活の中で使用するデジタルカメラ、DVDレコーダー、液晶テレビ、移動手段で使用する車、電車、飛行機。その他にも携帯電話、自動販売機、電光表示機、自動ドアなどさまざまな場面で組み込み技術が利用されている。

MACSでは、以下の組み込み開発に取り組み、社会に貢献すべく努力を続けている。

- 人の目で直接見ることが出来ない商品の内部を小型デジタルカメラで撮影し、傷の有無を判定する画像処理のシステムの開発。
- モーターの回転数やトルクを制御することで安全でスムーズな動作を実現するモーター制御コントロールシステムの開発。

02 組み込み 技術開発

システムに必要なネットワーク技術

組み込み開発、業務アプリケーションと並ぶ3本柱のもうひとつがネットワーク技術である。身近な例をあげると、学校、会社、一般家庭で使用されているインターネット。個人のパソコンと会社のサーバーを安全に接続するところにネットワーク技術が使用されている。何気なく使っているネットワークには、情報をスムーズにそして何よりも安全に伝える必要がある。これらは当たり前のことであるが、簡単なことではない。他にもデジタル家電の設定、個人情報のセキュリティを意識したシステムの構築を行ったりとネットワーク技術は、まさに縁の下の力持ちである。

03 ネットワーク 技術

社員の声



嶋元 伸太郎

ソフトウェア開発2部 システム開発1課
先輩方は話しやすく、また丁寧に指導してくださるのでとても働きやすい職場環境です。私自身文系卒のため分からないことだらけでしたが、様々な仕事を通して、周囲の方に助けられながら少しずつ知識や経験を積んでいます。MACSと一緒に楽しく働きましょう！



竹田 興平

ソフトウェア開発1部 システム開発1課
プログラムをほぼ知らずに入社しましたが、優しい先輩方に色々教えてもらい、やっていくことができています。苦しいこともあります。作ったプログラムが運用されているのを見ると、やりがいを感じます。この業界に興味がある方は、是非、一緒に働きましょう。



栗栖 朋香

ソフトウェア開発2部 システム開発1課
2ヶ月の研修や配属先でのOJT制度など、プログラミング未経験でも問題なく業務に取り組みやすい環境だと思います。先輩や上司にも質問や相談などしやすく、文系出身で全くプログラムの知識がなかった私ですが様々なことを学びながら前向きに働くことができています。是非一緒に楽しく働きましょう。



藤枝 香鈴

ソフトウェア開発1部 システム開発1課
マックスの魅力は丁寧なサポートと働きやすい環境だと思います。全くの未経験で入社しましたが、分からないことがあれば些細なことでも丁寧に説明していただけるおかげで安心して仕事が進められています。また、働く環境としてもオフィスカジュアルや在宅勤務以外にも、社員が働きやすいような制度が検討されています。未経験でも働きやすい会社と一緒に少しずつ成長していきませんか。



内宮 将司

東京支店 システム開発課
プログラムに関する知識が少なくても上司や先輩方が丁寧に指導してくださるので、安心して経験を積んでいけます。大変なこともあります。作ったプログラムをお客様に見てもらい喜んでくれたときはやりがいを感じます。東京支店は発足して間もないので一緒に作り上げていきましょう。



平田 拓也

東京支店 システム開発課
プログラムの知識がない状態で入社しましたが、研修がしっかり行われ、また業務で生じた疑問点に関して先輩方が丁寧に教えてくださるので、未経験の自分でも安心して業務に取り組むことができています。大変なこともあります。日々成長を実感できる環境だと思います。



栞山 芽生

ソフトウェア開発1部 システム開発2課
新人研修が充実しており、文系卒で知識のない状態からでしたが安心してプロジェクトに入ることができました。若手であっても様々な業務に関わらせてもらえますし、困ったときには先輩方が丁寧にサポートしてくれます。意見を聞いてもらえる組織風土があり、働きやすく、やりがいの感じられる職場だと思います。



前 悠理

ソフトウェア開発2部 システム開発3課
未経験で中途入社しましたが、研修でプログラムに関することを1から教えてくださるので安心して業務に取り組むことができます。また、わからないことがあっても先輩方が優しく教えてくださるのでとても働きやすい環境だと思います。是非、一緒に働きましょう。

コミュニケーションを無限にする MACSのトータルソリューション

日本のものづくりをサポートする 先進のソフト技術開発

気付かない間に生活の中で使用している先進技術極小のチップ、省電力で稼働する組み込み製品。それらを組合せ大きなものを作る。MACSは、ソフト技術で、ものづくりで、貢献する。ここでMACSの「ものづくりサポート」への取り組み姿勢と流れをフローで紹介する。



SE (システムエンジニア) からSA (システムアナリスト) へ MACSのソフト・エンジニアは限りなくゼネラリストを目指す。

100のユーザーがいれば、100のシステムが存在する。当然、要求分析から設計・開発、保守に至るプロセスは多種多様である。しかし、そのすべてに共通する重要なポイントをひとつ挙げるとすれば、それは、「ユーザー自身も気付かない潜在的ニーズも含めて、いかにユーザーのニーズを的確に把握し、本当に満足いただけるシステムの開発を行う事」に尽きるだろう。

そのためには、コンピューターやソフトウェアに関する最新の知識はもちろん、ユーザーが位置する業界や業務全般に精通する必要がある。さらに、さまざまな個性をもったシステム担当者との折衝能力、チームワークにおけるリーダーシップが問われることは言うまでもない。ユーザーに寄り添い、ある時はユーザーをもリードする。そんなSAとしての提案能力を持ったゼネラリストこそ、MACSの目指すソフトエンジニア像である。

提案型のシステム構築

ハードウェアのダウン・サイジングから企業の経営戦略全体を担うBPR (ビジネス・プロセス・リエンジニアリング) まで、コンピュータシステムへの社会的ニーズはますます高度化、多様化している。次にMACSのシステム開発のフローと、開発における基本姿勢を紹介する。



教育システム

あらゆる企業にとって優れた人材の育成は最重要課題である。ただしMACSのいう優れた人材とは、個性を持たない金太郎あめのような優等生を意味しない。個人の持つ資質、才能を自らの手で高め、MACSの一員という誇りとともに自ら考えて行動ができるSEに成長してほしいと考えている。与えられた仕事をこなすだけでなく、積極的に新しい技術を学び、失敗を恐れずに自ら仕事を創りだしていくSEになることがMACSの人材育成の基本的な考え方。

新入社員が理解しやすいようにきめ細かくサポートする新入社員研修を始め、数年に及ぶOJT研修など社員ひとりひとりの適性や能力に合わせた多様な教育システムを準備している。

入社前研修

入社前に自由参加で研修を行う(毎年3月に4回実施)。フローチャートの書き方やプログラムの基礎を学ぶと同時に社内の雰囲気になれることが目的である。

新入社員研修

未経験者でも技術者として活躍できる充実した研修を行っている。2か月間でプログラミングの基礎を学び、業務に必要な知識を身に付けて各部署に配属される。



OJT(On The Job Training)

新入社員研修が終了した後は、社外研修の受講や若手のSEが個人の能力や適性に合わせて個別に指導する。より深い情報理論を学び、最新言語を使ったプログラム構築の実習を行う。



社員総会

創業以来MACSが堅持している「全員参加型の経営」という企業理念は決してお題目にとどまらない。社員総会は、毎年春と秋に行い、全社員が参加して様々なテーマについて話し合われる。最新の技術動向から、福利厚生、売上、利益配分、中長期的な経営方針などその内容は多岐にわたる。社員総会はまさにMACSの最高意思決定機関であると言える。個人の意思を尊重し、組織の進路を決定する。こうした「全員参加型の経営」が確実に機能しているのは社員一人ひとりの自覚と企業人としての高いモラルが不可欠であることは言うまでもない。



社員旅行(決算旅行)



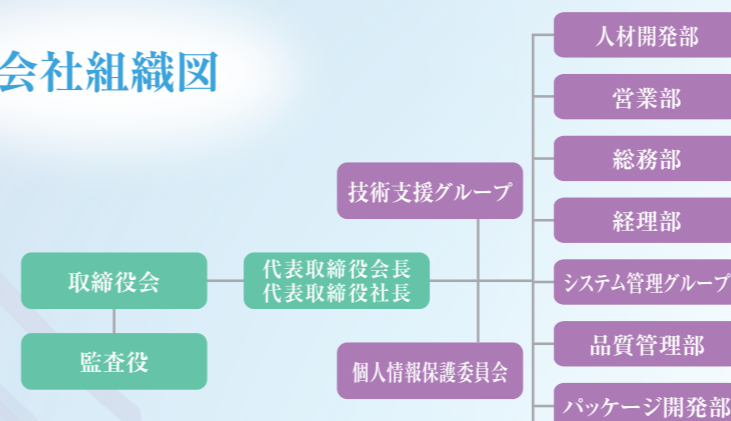
2年に1回行われる社員旅行。これを主催するのが「松栄会」である。松栄会は、旅行をはじめ、ビアパーティ、忘年会など社員全体の親睦を図る行事の全ての企画・運営を行っている。その中でも最大のイベントが社員旅行である。旅行の半年前から、松栄会役員が綿密に計画し、旅行を盛り上げる。また計画を上回る利益を達成した年には、社員旅行とは別に全額会社負担で社員の労をねぎらい決算旅行が行われる。

ファミリーデー

年1回社員の家族が集まって行われるファミリーデー。社員を影で支える家族、そして社員全員に感謝の気持ちをこめて盛大な食事を開催している。



会社組織図



会社概要

設立 昭和62年11月
 資本金 3,000万円
 代表者 寺田 能裕
 社員数 80名(男性55名・女性25名)
 売上高 10億2677万円
 事業内容 ソフトウェア開発

▼大阪本社



▼東京支店



※地下鉄四ツ橋線「本町」駅下車③番出口を出て四ツ橋筋を南方向に徒歩5分



本 社

☎ 550-0013 大阪市西区新町1丁目13番3号 四ツ橋KFビル6階
TEL(06)6536-3236(代) FAX(06)6536-3276

東京支店

☎ 101-0052 東京都千代田区神田小川町2-2 センタークレストビル9F

URL <https://www.macs.co.jp/> E-mail saiyou-entry@macs.co.jp

